

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。先日開催された陸上の世界選手権東京大会第6日目、国立競技場で行われた男子400メートル決勝には日本記録保持者の中島佑気ジョセ

フ氏が出場。決勝の舞台に立つのがどれほど困難か。中島氏の力走に国立が揺れました。日本人にとって34年ぶりとなるファイナルを疾走し、44秒62で日本勢最高の6位に入りました。日本人として誇らしい限りです。今後の活躍に期待したいと思います。10月の声を聞き気候もようやく秋めいてまいりました。季節の変わり目、皆様にはお身体をご自愛ください。

サンライズの物語

「最期の時間に寄り添って」

— 家族と共に過ごした6日間、ケアマネとしての問い —



その方は、乳がん罹患され抗がん剤治療を受けておりましたが、全身に転移し自宅での療養を決めた方でした。

初めてお会いした時に、モルヒネを投与し意識が虚ろになりながら眠らないように首に氷を当てていたのです。娘さん二人の手を握りしめ病と闘っていたのが印象的でした。

毎晩、ご主人が手を握り眠りに着くなど家族皆さんがお母様を励ましておられました。

介護保険の認定申請、調査、暫定のサービスを開始し全て整ったのを見届けるように、6日後に永久の眠りについてしまったのです。

お一人お一人の人生の最終章にケアマネとしてお会いする度に自分にはできる限りの事をしたのかという疑問符が頭の中に浮かびます。

サンライズのデイサービス陽光だより



お誕生日 皆さんでお誕生日の歌を歌って誕生日カードをプレゼントさせていただきました。おやつに手作りパンケーキをお出ししました。



カレンダー工作
おはながみで椎茸を作り画用紙に貼り付けて作りました。



NEWS 今月のニュース

認知症予防、地域で支え合って 浜田で啓発イベント

認知症の啓発イベント「オレンジフェスティバル」が23日、浜田市内であり、来場者は地域で助け合う大切さを伝える寸劇や、検査ができるブースなどを体験し、認知症への理解を深めた。

医療や介護関係者ら有志約30人でつくる「RUN伴しまね浜田エリア」が、「歩こうわたしの街で」と題し約20分の寸劇を披露した。住民や学生たちが物忘れや行き先のバス停が分

からず悩む70代男性と一緒に散歩し、道案内をする心温まる様子を演じた。緊急連絡先やかかりつけ医を記したヘルプカードの活用法も劇中で紹介した。

会場には11のブースがあり、補聴器専門店による耳年齢チェックや、脳の活性化を図る芸術療法の体験コーナーもにぎわった。

浜田市長沢町の佐々木利枝さん(80)は「普段から人が集まる場所に行って元気をもらうよう心がけている。認知症予防にはみんなで支え合うのが大切

だと学んだ」と話した。

イベントは、9月のアルツハイマー月間に合わせ、RUN伴しまね浜田エリアと浜田市が初めて開いた。



認知症の寸劇を披露するRUN伴しまね浜田エリアのメンバー＝浜田市野原町、いわみーる

<山陰中央新報デジタル
2025/9/24(水)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>